

【質問1】本日のセミナーはどうでしたか。

- ・よかった 35人(48%)
- ・まあまあよかった 35人(48%)
- ・あまりよくなかった 2人(3%)
- ・よくなかった 1人(1%)

【質問2】本日のセミナーの感想をお書きください。

- ・教材研究がいかに大切かがわかりました。忙しいからといって教材研究をおろそかにしてはいけませんですね。
- ・今までの教材研究のありかたではあまいということがわかりました。私は教材研究する時、単元全体を通して何を教えればよいかを考え何度も繰り返し指導書をよんでいました。しかし、指導要領や評価規準等も目を通す必要性を感じました。
- ・授業の本質に迫るお話しで、とても刺激をうけました。
- ・子どもの立場からの教材研究論として、授業を流すための教材研究論とは一線をかくものであり素晴らしいと感じました。
- ・教材研究に使う時間には限りがある。
- ・数学的活動がいかに重要であって、子どもたちの多様な考えを無駄にしないように取り組むことが大事であるということがわかった。
- ・小学校では教科が多いため深い教材研究ができないので、心が苦しくなった。
- ・私たちが当たり前だとおもっていることでも、問題に初めて出会う子どもたちには疑問がたくさんでてくるということが改めてわかった。
- ・教材研究の大切さと、子どもの疑問をつぶさないための準備の必要性を感じました。
- ・教科書、指導要領、評価について表面的なところしか見えていませんでした。もっと深く読みとって授業に臨むべきだと考えさせられました。
- ・算数の指導の仕方について考えさせられる点が多くありました。特にまとめの部分は自分で授業していく上で子どもたちが多くのアイデアをだした後にうまくまとめられず、うやむやに終わってしまうことが多く悩んでいた部分であったので大変勉強になりました。
- ・鈴木先生の講演をもとに研究授業に臨んでいきたいと思えます。
- ・教師になって約2カ月。算数については努力していたつもりでしたが、全く見ていない視点ばかりでとても勉強になる2時間でした。
- ・授業研究のやり方の大切さを再発見することができました。教科書をよく読み「て、め、あたま」を考えていきたいです。
- ・教材研究と教科書の使い方の話を聞いて、自分自身が教材研究をできていないと感じました。
- ・「教師自身が算数的活動を行う」という言葉が印象的でした。意味のある教材研究をこれからも心がけて行っていきたいと思えました。また、「て、め、あたま」を実践し、子どもたちと授業を創りあげていきたいです。
- ・「て、め、あたま」が算数的活動での中枢ということがわかった。話し合いを「て」「め」「あたま」のどこで行うのかで目的が変わり、授業の幅が広がっていくと感じました。
- ・教科書の使い方について大変勉強になりました。「て、め、あたま」を実践していこうと思えます。
- ・授業の原点に戻れました。ありがとうございました。
- ・自分の考える場面が有益になる講演でした。教科書をじっくり読む心構えを忘れていたので反省です。初心に帰って1時間1時間を大切にしないといけないと感じました。

- ・授業に現れるのは、教材研究したうちほんの一部でそれこそ氷山の一角のようなものだと思います。海中に沈んでいる部分が大きければ大きいほど海面に現れる部分も大きいのだと思いました。
- ・教材研究の大切さを学びました。どんな観点で考えていかなければいけないのかもわかりました。
- ・教材研究についてヒントをもらうことができよかった。「て、め、あたま」を大切にしていきたい。
- ・「て、め、あたま」の話が強く心に残りました。自分は今までこのような見方をして教科書を見ていなかったなと思いました。
- ・答えを知っているからどうにかできるとたかをくくっている自分に反省しました。教材研究をますますしっかりとしていきたいと思います。
- ・すごく勉強になりました。教材研究の大切さを痛感しました。本当にありがとうございました。
- ・私は大学4年生で、昨日教育実習が終わりました。自分が実習で感じたことは少ないと思いますが、教科書や授業について知ることが多くあり勉強になりました。
- ・子どもの考え・発言を大切にしたい授業をしていきたいと思った。「目の前の子どもに合うように教科書を活用できるのは、担任の先生しかいない。」との言葉が印象的だった。
- ・教材研究の大切さを改めて考えることができた。
- ・子どもの活動を中心に算数的活動を行うことの重要性、子どもがどう考えたのか、誤答でもどのように考えたのかを大切に、正答が当たり前だと思わず、そういったものを予想しておくことも大切だと感じた。
- ・初心に戻り教育を考える機会ができました。算数でも他の場面でも大切な考え方だと感じました。
- ・小5の平均の問題を通して、教科書の見方や具体物操作と式との結びつき、まとめの仕方など具体的に教えていただきわかりやすかったです。
- ・受講に考えさせる、鈴木先生がこうだと答えを言わない内容であったのがよかった。
- ・教科書に記載されていない子どもの発想や誤答を考えることが大切という言葉が心に残りました。
- ・教科書は授業・子どもの学びのよりどころであると今更ながら考えさせられました。しかし、「考えは人なり」であることも痛感しました。ありがとうございました。
- ・副題が「若い先生のために」となっていますが、若い先生があまり来ていなかったことが気になりました。
- ・教科書に頼り切って授業をしています。教材研究にあてる時間が限られているので毎時間はできませんが「て、め、あたま」を意識して考えてみます。ありがとうございました。
- ・教材研究が教師の第1の仕事であることを再確認した。「て、め、あたま」をもとには小林先生も同じ考えだったことを思い出した。
- ・教科書の使い方、子どもの疑問を大切にすることなど大変勉強になった。
- ・教科書作成者の立場から話を伺うことができよかった。
- ・教材研究の大切さを学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・算数の学習での子どもの反応、発想に対して適切に言葉掛けをして理解を深めさせる。そのために教材研究をして、自分の対応の引き出しを増やしたいと思いました。
- ・いろいろなものを注意深く読んだりする必要があると感じた。教科書をしっかり読み、教師視点だけでなく、子どもの視点に立って考える必要があると思った。
- ・目先の技術やアイデアを求めがちですが教材を丁寧に考えることの大切さを思い出した。十分な研究ができない環境ですが、少しでも時間を作ってみようと思います。
- ・教科書で考えることは大切ですが教科書に書いてない内容を教師が教えなければいけないということがわかりました。教材研究をしっかりと行きたいと思いました。
- ・教科書に何気なく書いてある一言が、実は深い意味、学びがあるということがわかってよかった。

解き方を知っている子・知らない子、それぞれへの働きかけのポイントが聴けて良かった。

- ・教材研究ということばでひとくくりになっているが実は、教材理解と教材研究も含んでいる。視点で分けてみると面白い。
- ・算数的活動を使うのは、課題達成のため、わからないことがわかるようになるため、創造的能力を高めやすくするため、など、改めて算数的活動について考えていかなければいけないと思った。
- ・算数の授業をする時、教科書をどのように使うかについて迷いがありました。なので、本日は学ぶことが多くありました
- ・授業をどう流すかが大切なだけでなく、子どもたちの考え、発言を予想しながら教材研究をすることが大切ということがわかった。教科書を上手に活用するためにも何度も教科書を読み返していきたいと思います。
- ・数学だけでなく、指導に関しても自分で考えてやっていかなければ、次々と改定される教科書や学習指導要領についていけなくなるのではないかと考えています。てっとり早い方法を1つ求めて、それがすべてになってしまうのはいけないと思います。でも、いろいろな手っ取り早い方法を聞いて、自分なりに考え、アレンジして実践してみるの、時間のない教師にとっては大きなヒントになると思います。
- ・原点を振り返り、算数科で養うべき力のために教科書をどう見て活用するか再認識することができた。
- ・教材研究では当然子ども側に立って考えるべきだが、その見方が甘いと常にある。こういう見方は日々の様々な教育活動の中で児童の実態をつかむことであり、経験のある者も常に努力が必要であり、若い教師はそれを意識してより一層努力することが必要だと思っている。
- ・知識技能を考える、それを黒板に書くノートにまとめる。学び合いの授業が多く進められる中、これらのことが忘れられがちであり、今日、その重要性が話されたのがとても納得した。
- ・教科書の扱い方には教師の授業研究の在り方で大きく変わることを学びました。教科書に誤答を載せてみては、という意見は面白いと感じました。「間違いは神様だ」という言葉があるように、子どもたちが間違えから本当の正解を見つけ出すことができたらと思う。
- ・授業をしていく上で教科書をしっかりと見込んでいくことがとても大切だということがわかりました。課題、めあてがあってまとめがある。1時間の授業で子どもたちにどこまで教えていくの、がいいかということ、を改めて考えるいい機会になりました。「て、め、あたま」を考えて教材研究をしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・最近はお教えることに慣れてしまっていて「何のために」今、学んでいるのか子どもたちに伝えていなかったと思いました。誤答の取り上げ方も「同じ間違いをしてほしくないから」という思いが強かったように思います。子ども目線に立った教材研究とは、どういうものなのか、改めて気付かされました。ありがとうございました。
- ・色々な場面で強弱をつける言葉は大切だと改めて思った。また、指導書等の作成者側の意図がわかってよかった。共感するところがたくさんあった。
- ・(鈴木先生にお願い) 算数の教科書で練習問題をやる時ノートにうつす方式なので、教科書に書きこみできるようにスペースを空けて欲しい。しかも、とじしろは曲がっているので書きにくいです。